

稲穂も黄金色にみのり、各地で稲刈りが行われるようになりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

先日、陸中海岸青少年の家での「放課後児童支援員認定資格研修」実施のため、当センターから釜石道を通り、釜石市を經由して山田町に向かいました。

道中、海岸線には高い防潮堤の建設が、造成した高台には住宅の建築が進められ、町にはスーパーマーケットやドラックストア等があり、着実に復興が進んでおりました。

震災前、海岸線を走行すると美しい海を目にすることができましたが、防潮堤が建設されていくことにより、それが見えなくなっていたことに寂しさを覚えました。

高い防潮堤は、沿岸部の皆様が安全で安心な生活を送るために必要なものと捉え、一日も早い完成を願うばかりです。

また、災害公営住宅や造成した高台の住宅地では、その住民の皆様により、新しいコミュニティが構築されてきているのではないかと思います。社会教育に携わるものとして、その構築に微力ながらお役に立てればと考えております。

さて、今回は、前号に引き続き、「子育て支援活動交流研修会」において講演いただきました岩手県立大学准教授 櫻先生の講演内容をお伝えします。

センター情報

前号では、「子どもの貧困の状況」「岩手県における子どもの貧困」についてお伝えしましたが、今回は、「貧困が子どもに与える影響」「子どもの貧困に関する支援の枠組み」についてです。

櫻先生は、「子どもの貧困は人間形成の重要な時期である子ども時代を貧困のうちに過ごすことは、人生全体に影響を与えるほどの多くの不利を被ることにつながる」とおっしゃっておいりました。

また、貧困が子どもに与える影響については、以下の点を挙げておいりました。

- 様々な「不利」「困難」を一方向的に被る。
- 貧困に関する相談を主体的に行うことが困難である。
- 貧困状態が発見されないまま放置される。(見えない貧困)
- 次の世代まで各種の「不利」「困難」が継承される。(貧困の連鎖)
- 子ども自身を支援する具体的な支援策が不足である。

子ども達の貧困に関する支援の枠組みについては、親や子どもを取り巻く環境への支援・介入や、親への支援とは別に子どもに直接届く支援が必要とのことであり、以下の支援策について述べておいりました。

<子ども及び親への支援は>

- それぞれ個人に焦点をあてながら世帯全体を支援していく。
- 制度で一括して支援するのではなく、世帯や個人の課題に合わせた丁寧で柔軟な支援や子ども自身のニーズを把握することが重要である。

<地域においては>

- 貧困世帯の親や子どもの支援に関わるネットワーク形成が必要である。
- 予防的支援として早期発見、早期対応、見守り、健全状態の維持というアプローチをする。

<保育所・学校・学童（放課後児童クラブ）は>

子どもの生活圏・日常の動線上にあり、あらゆる所得階層の子ども達が通っているため、普遍的なサービスでありながら、特別な配慮が必要な子ども達も支援することが可能であり、地域における重要な結節点（支援のプラットフォーム）である。

<学校は>

- 福祉と教育が会う場所である。
- 貧困世帯の生活環境、学習環境を福祉的支援で支え、子どもの学習権を保障する。
- 子どもの様子を教室だけでなく、保健室や相談室等で養護教諭やSC（スクールカウンセラー）、SSW（スクールソーシャルワーカー）等が捉え、子ども本人から相談を受け、多様な対応ができることが望ましい。
- 家庭訪問などアウトリーチによる家庭への支援も重要である。

また、櫻先生は「貧困世帯の未就学児に保育者が果たす役割」として、特別な支援を必要とする子どもへの保育は特別な保育を別個で考えるのではなく、保育の基本や保育者の役割を踏まえ、保育がもつ本来の機能を十分に生かして、子ども同士の発達を相互関連的に捉えて保育を組み立てていくことが必要であるとお話していました。

<保育の際の関わり方等について>

- 子ども一人一人の特性を踏まえて丁寧に関わる。
- 家庭との緊密な連携を取り、保護者とともに歩む。
- 同僚と共同で支え合う。（一人で問題を抱えない）
- 地域の専門職・関係機関と協働・連携して支える。（アウトリーチ/見守り）

<保育者（指導員・支援員）が行う支援の特徴としては>

「子ども」と「親」の両方に対して「日常の中で支援」ができ、継続的に見守ることができる。

○子どもにとっては

- ・子どもの発達に大きく影響する基本的信頼関係の構築ができる。
- ・安心・安全な場、「社会的相続」を受けることができる場となる。

○親にとっては

- ・人とのかかわり（コミュニティ・ビルディング）をつくれる場となる。
- ・SOSを出せる安心・安全の場、子育ての仕方を学べる場となる。

<子どもに直接届ける地域での支援としてあげられるものとしては>

- 子ども食堂

⇒居場所、栄養、味覚、食べる楽しさ、安心感

○学習支援

⇒居場所、学習意欲、学力、安心感、将来への見通し

○子ども会／地域行事

⇒社会性、マナー、多様な大人との関係

○民間団体等の体験活動

⇒多様な参加の機会による新しい視野やパラダイム（規範）の獲得

このほかに、見守りや朝夕の声かけなどによる『私達の（地域の）子ども』という意識が、子どもの安心感や社会への帰属感、社会への信頼感を育むことにつながるとおっしゃってありました。

前号及び今回にわたって、「貧困」をテーマとしてお伝えしてきましたが、現在、貧困の中で生き抜いている子どもたちが存在していること、その子どもたちにどのような支援策をとっていかなければならないかということについて、理解を深める機会になりました。

今回の講義から学んだことを教育現場の皆様にもお伝えし、そうした子ども達への支援に役立てていただければ幸いです。



このメールマガジンは、県内小・中学校、義務教育学校、社会教育関係者及び生涯学習・社会教育に関心を持たれている登録者の皆様に無料で配信しています。ご意見・ご感想、登録・登録解除は下記アドレスにご連絡ください。⇒ E-mail ; takashi-kuji@pref.iwate.jp

メルマガのバックナンバーをセンターHP「まなびネットいわて」で閲覧できます。⇒ <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>

左下の「発行物・刊行物」>「いわてマナビィマガジン」をクリック



発行：岩手県立生涯学習推進センター（花巻市北湯口2-82-13）

編集：久 慈 孝